



理念

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

基本方針

- 地域における医療福祉の向上につとめ、地域住民のいのちと健康を守ります。
- 地域の中核病院として、地域の医療機関と連携・協調を図ります。
- 二次医療を中心に担当します。
- 医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指します。
- 超高齢社会における治す医療と支える医療の両立を目指します。

新年あけまして おめでとうございます

病院長 大石 正博

新年を迎え、謹んで初春のお慶びを申し上げます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

旧年中を振り返ると新型コロナの対応に明け暮れた一年でした。当初、専門家の意見では、「100年前のスペイン風邪に匹敵するパンデミックで何の対策もしなければ日本の死亡者数は最大42万人に達する。」とのことでした。東京などの大都市から感染が広がり、鳥取県でもピーク時には400人程度の感染者が発生すると想定されました。このため当院でもワーキンググループを立ち上げ、多職種のかたに参加していただき、膨大なマニュアル作成、発熱外来や屋外PCRの運用、受け入れ病棟の準備を行いました。幸い、当院のスタッフの高い職業意識のお陰で逃げ出すスタッフもなく、混乱なく新型コロナの患者さんを受け入れることができました。

この原稿を書いている12月20日までで鳥取県内の累積患者数は69人、現在入院中の患者数は8人です。鳥取で想定より感染者が少なかったのは、都会とちがいに人との間に適度な距離感があり密にならなかったのが一番の理由かと思

いますが、意識の高い県民性によるところも大きいかもかもしれません。ただ、先行きは不透明のままです。日本でワクチン接種が始まるのは春以降で、集団免疫ができ新型コロナが終息するのは2022年の春ごろとの予測が多いようです。現在行っている面会制限もしばらくのあいだ必要なようです。病院本来の温かい雰囲気にもそぐわない面会制限ですが、入院患者さまの感染予防のためにも、ご理解くださいますようお願いいたします。

さて、新型コロナ対策と並行して課せられた当院の今年の課題は地域医療構想です。鳥取県では高齢者が2025年から2030年にもっとも多くなり、医療需要が最も多くなると予想されていますが、それ以上に介護医療の需要が多くなりそうです。それに向けて、急性期病院の機能分化や各病院間での連携が求められています。地域が当院に求めるニーズを把握し、地域で愛され必要とされる病院となるように、職員一丸となって頑張っていく所存です。本年もさらなるご理解とご協力をいただけるようお願い申し上げます。



安心して入院生活を 送っていただくために



医療安全対策室
リスクマネージャー
松本 智子

転倒・転落防止 について

入院中は慣れない環境という事に加え、病気や怪我による運動機能や体力の低下、在宅に比べて活動量が低下するため下肢筋力の低下も起こりやすくなります。その為、移動時にバランスが崩れることで転倒し、場合によっては骨折することがあります。

このような原因によって発生する転倒・転落を防止するために、さまざまな取り組み・対策を行っています。

入院中に転倒や ベッドからの転落が 起こりやすいのはなぜ？

転倒は自宅に居ても外出先でも起こりえますが、入院中は病気やケガの影響や、薬の影響などによって下肢の筋力が落ち、身体のバランスをとる力が弱くなります。点滴や栄養補給のためのチューブ、酸素吸入用のチューブ、治療のために体に挿入されたチューブなどが身体を動かしにくい状況を作ったりもします。

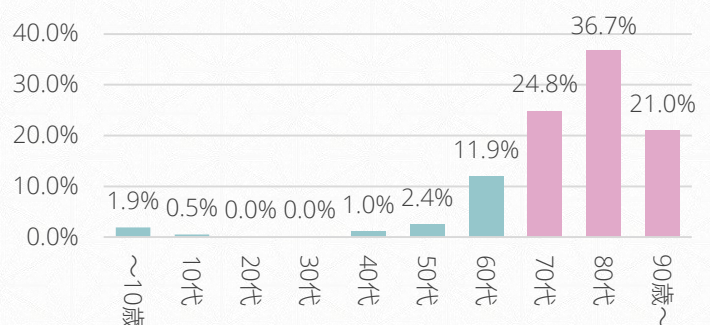
さらに、認知症を伴う患者さんが増えていますし、入院中には「せん妄」という意識の混乱した状況が出現したりして、思いがけない転倒やベッドからの転落の危険が増えています。お年寄りなどで慣れないベッド生活での転落も要注意です。

このように、入院生活においては転倒・転落が起こりやすい要因が数多く存在しているのです。

どのくらい 転倒・転落があるの？

当院の2019年度の転倒・転落は213件の報告がありました。

転倒・転落の傾向は60歳以上から急激に増加し、70歳以上では全体の80%以上を占めました。転倒・転落に繋がる前の行動の多くは排泄行動であり、全体の30%となっています。トイレに行こうとして立ち上がった時、歩き始めたなど移動行動に伴う転倒報告もあります。また、ベッドの下に物が落ちて拾おうとして転落した報告もあります。



2019年度 転倒・転落年代別件数

❁ 転倒・転落を未然に防ぐために！

ベッド周囲の環境を患者さんの行動に合わせて変化させます。患者さん動ける能力に応じてテレビ、テーブルの位置などを患者さんと話し合いながら調整します。

また、患者さんの行動だけでなく、現在の状況（既往歴、身体機能、使用中の薬剤等）から、起こりうるリスクを想定して転倒・転落防止対策を行っています。



❁ 転倒・転落発生防止対策と多職種による協力体制

転倒・転落は骨折や外傷を伴う場合があり、鳥取市立病院では患者さんの状態把握に努め、安全に入院生活を送っていただけるよう取り組みを行っています。

まず、入院患者さん全員に入院時に転倒・転落経験、感覚、機能障害、活動領域、認識力、薬剤、排泄、性格、環境等の項目からなる「転倒・転落アセスメントシート」で評価を行います（右表）。点数（高いほど転倒・転落の可能性大）により危険度を0（2点以下）・I（3～9点）・II（10～19点）・III（20点以上）に分類し、看護計画を立案し介入を行います。この評価は毎週、患者さんの状態の変化（手術後、転倒・転落してしまった時など）によって行います。

また、転倒・転落があった場合は、複数の看護師でタイムリーにカンファレスを行い、対応を検討しています。病棟の看護師に加え、入院環境へ適応するのが難しい認知機能の低下した患者さんへの対応については、認知症看護認定看護師と、そして睡眠覚醒リズムを整えるために、緩和ケア特定認定看護師と連携をしています。

ベッドからの移動時方法なども、理学療法士・作業療法士と協働し、患者さんが動きやすい方法を考えていきます。

転倒・転落アセスメントシート

分類	特徴	評価スコア
年齢	65歳以上	2
既往歴	転倒転落または失神の経験がある	2
感覚	視力障害・聴覚障害がある	1
機能障害	麻痺・しびれ、骨関節の変形・拘縮・痛み	3
活動領域	筋力低下、めまい・ふらつき、補助具使用、要移動時介助、30週以降の妊婦	3
認識力	見当識障害・意識混濁、せん妄・認知症・ねぼけ、不穩、判断、理解力低下	4
薬剤	睡眠薬	3
	抗不安薬・抗精神病薬	2
	抗うつ薬・抗てんかん薬・抗けいれん薬 降圧剤、妊婦でズファジラン使用中	1
排泄	<input checked="" type="checkbox"/> 頻尿、便・尿失禁 <input checked="" type="checkbox"/> バルン留置 <input checked="" type="checkbox"/> 排せつ介助要 <input checked="" type="checkbox"/> 夜間トイレに通う <input checked="" type="checkbox"/> ポータブルトイレ使用	各2
性格	あせる、羞恥心が強い 依存できない 自分でしないと気がすまない	1
環境	手術後・検査後初回歩行 緊急入院	1
その他	<input checked="" type="checkbox"/> 分娩後・分娩時500ml以上の出血 <input checked="" type="checkbox"/> 分娩遅延 <input checked="" type="checkbox"/> 貧血(10g/dl以下)	各1